



植物工場の事例を説明する谷晃教授＝20日午後、沼津商工会議所会館

農業先端技術学ぶ
沼津で県セミナー

県は20日、科学技術や地域の特性を活用して農業革新を進める「アグリ・イノベーション」のプロジエクト概要や農業生産の最先端技術を説明するセミナーを、沼津市の沼津商工会議所会館で開いた。企業関係者ら約110人が、植物工場の生産手法や、農業レジ

ネス参入時の注意点について理解を深めた。

県立大食品栄養科学部の谷晃教授は、野菜を生産する植物工場を「完全人工光型」「自然光・人工光併用型」などに分類し、それぞれの技術や生産物の特徴を解説した。一年を通じて安定供給できる点をメリットに挙げる一方、設備投資の大きさ、独自販路の開拓など課題も提示した。

先進的農業ビジネスに関するコンサルティングを行う一般社団法人イノプレックス(東京都台東区)の藤本真狩代表理事は農業参入の具体例を通じて、市場が求める農作物を見極める重要性を説いた。仲卸などからの情報収集の必要性を強調し、「エンドユーザーが何を価値として認めるかが非常に重要」と言葉に力を込めた。